

2023 年度 美術史学会美術館博物館委員会 東西合同シンポジウム

学芸員の キャリア・トランジション —その事例と功罪

CAREER

TRANSITION

2024.2.11 SUN

13:00—17:00 (12:30 受付開始)

大阪市立大学140周年記念講堂

(大阪市住吉区、大阪公立大学杉本キャンパス一号館 1 階)

主 催：美術史学会、美術史学会美術館博物館委員会

後 援：日本博物館協会、アート・ドキュメンテーション学会、一般社
団法人 全国美術館会議、日本アートマネジメント学会(仮)、
日本ミュージアム・マネジメント学会(仮)、文化資源学会(仮)

お問合せ：美術史学会美術館博物館委員会 (mail:bihakusyμπο2023@gmail.com)



学芸員の キャリア・トランジション —その事例と功罪

C A R E E R

T R A N S I T I O N

学芸員という職業に就く人々の特徴のひとつは、キャリア転換がしばしば行われることであろうと思います。若かりし頃に抱いた「学芸員になりたい！」との志は変わらずとも、他の美術館博物館への転出や大学教員への転出などの事例は枚挙にいとまがありません。いわゆる専門職、研究職のキャリア形成スタイルから見ても、かなり異質であることは事実です。

ではなぜ学芸員はキャリア転換をしばしば行うのでしょうか。学芸員本人の学問的専門という問題や家庭の事情、といった事柄は容易に想像できますが、それ以外にも様々な要素があるのではないのでしょうか。

そこで今年度の美術館博物館委員会東西合同シンポジウムでは、「学芸員のキャリア・トランジション」をテーマに開催し、キャリア転換を行った方々、敢えてこれを行わなかった方々など様々な方に、ご自身の経験談をお話し頂きたいと考えました。本シンポジウムは「学芸員なんていない！？—学芸員不要論を撃つ—」（2008）、「いまどきの新・学芸員—採用の現状と未来—」（2012）に続き、学芸員というキャリアについて考える試みです。

学芸員職を目指す若い学生の方は無論のこと、現在学芸員として勤務されておられる方にもぜひご参加頂きたいと思ひます。

はじめに

開会挨拶	西支部代表委員	井手誠之輔
趣旨説明	美術館博物館委員 大阪公立大学	菅原真弓
基調報告 事例データ（インタビュー結果とアンケート結果を基に）	美術史学会専門委員 大阪公立大学	渡邊麻里

第一部 基調講演および報告

基調講演 「現代の博物館における学芸員」（仮）	栗田 秀法氏（跡見学園女子大学教授）
事例報告 1 博物館から博物館へ	横山 勝彦氏（呉市立美術館館長）
事例報告 2 博物館から大学へ	野田 麻美氏（神戸大学講師）
事例報告 3 民間企業から博物館、そして大学へ	田中梨枝子氏（京都芸術大学准教授）
事例報告 4 博物館	奥村 泰彦氏（和歌山県立近代美術館副館長）

（15分休憩）

第二部 ディスカッション

司会	菅原真弓
話題提供	渡邊麻里

参加申込みは
こちらから

